

1 単元名「走る運動遊び」

2 単元について

本単元は、小学校学習指導要領解説において、C陸上運動系「走・跳の運動遊び（低学年）」に位置付けられ、中学年では「走・跳の運動」、高学年では「陸上運動」、中学校では「陸上競技」として位置付けられた運動領域である。

低学年の「走・跳の運動遊び」では、いろいろなレーンを走ったりリズムよく跳んだりする楽しさに触れながら基本的な動きを身に付け、中学年の「走・跳の運動」につなげていくことが求められている。また、簡単な遊び方を工夫するとともに、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりする力も求められている。

1年生のこの時期では、競争をすることや勝ち負けに楽しさを感じる事が多く見られるが、それだけではなくどこまで行けるか、どうすれば速くなるか等、達成型の楽しさ等も味わいながら、「走ること」の楽しさを広げていくよう指導していくことで自ら意欲的に運動に関わっていく姿を引き出していくことが大切である。そのため、タイムリミット走やリレー形式の遊び、遊び場づくり等、競争や達成、さらには協力しながら取り組む、自分たちで遊びを工夫する等の運動の楽しさに触れられるような単元を構成する。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

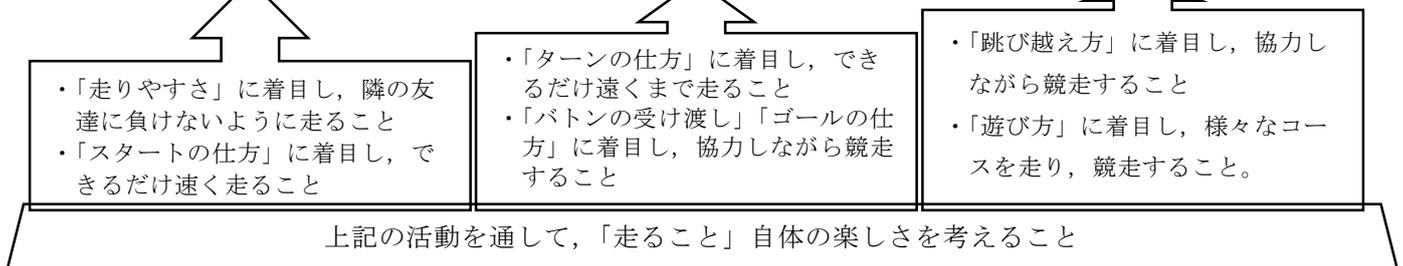
様々な走り方を試したり、自分にとって走りやすい動きを考えたりしながら、競い合いや協力することを通して、身体の動かし方等に着目し、「走ること」そのものに関わりながら、基本的な動きを身に付け、「走ること」の楽しさを広げ、進んで運動に取り組もうとする。

(2) 単元の評価規準

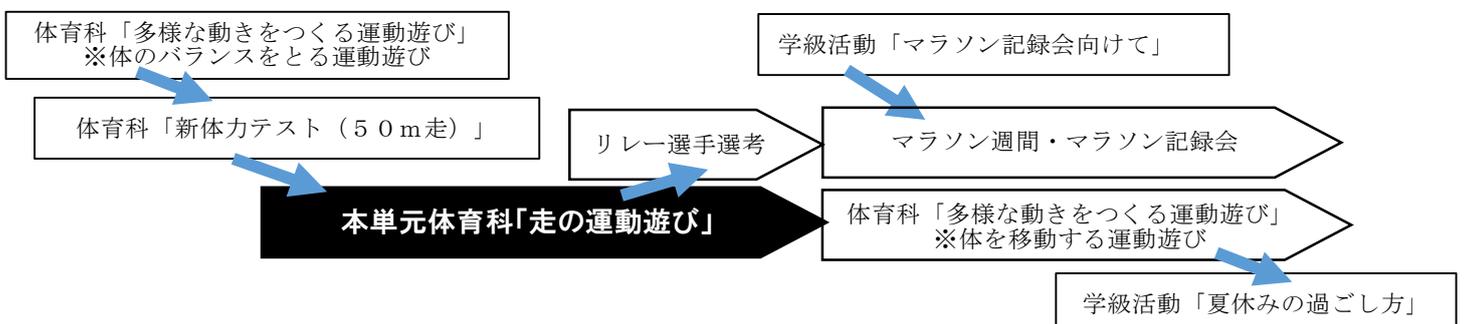
運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・表現	運動の技能
ア 走の運動遊びに進んで取り組もうとしている。 イ 遊びの順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ウ 友達と協力し、用具の準備や片付けをしたり、安全に気を付けたりしようとしている。	ア いろいろな走り方を知るとともに、自己に適したよりよい身体の動かし方を見付けている。 イ 走の運動遊びの行い方を知り、スタートの姿勢やターンの仕方、バトンの受け渡し方等を変えながら、いろいろな遊び方を選んでいる。	ア いろいろな方向に走ったり、いろいろな走り方をしたりすることができる。 イ 遊びの内容に適した走り方を行うことができる。

4 本単元において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」

体を動かすことの楽しさや心地よさを味わいながら、基本的な動きを身に付け、**意欲的に運動する姿**
※「走ること」 ※「いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりする」



5 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



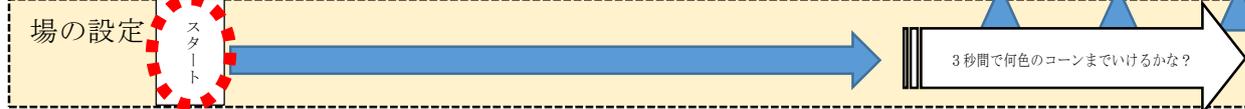
学 習 活 動

一貫した主体的学びをつなぐ手立て

1 「走る=速い・遅い」だけではなく、様々な走り方があることについて考える。**関ア**
 ・「3秒間走」の活動を通して、自己に適した「スタートの仕方」を選ぶ。**思ア・技ア**

○様々な走り方
 ・大股・小股・飛行機・忍者・カニ・後ろ向き・ジグザグ・跳び越え等
 ○様々なスタートの仕方
 ・正座から・うつ伏せから・仰向けから・気を付けから

【個の確立】 何度も「走ること」に関わることでできる学習過程を工夫し、走り方について選択できるような場を設定することで自ら試してみたいという思いをもって活動する姿を引き出す。

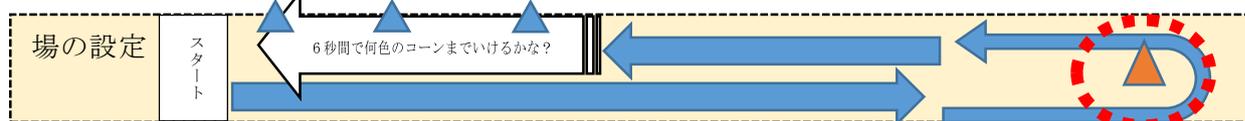


【見方・考え方を働かせる】
 ・隣の友達に負けず、遠くまで走るために「スタートのしやすい姿勢」に着目して考える姿を引き出す。
 【見方・考え方を高める】
 ・「スタートの仕方」について子供の思考を整理し、低い姿勢からスタートすることを共有する視点として押さえ、様々なスタートの仕方があることを知り、自己に適したものは何か思考し、試行する姿を引き出す。

【個の内面化】
 ・様々なスタートの仕方に名前を付け選択しやすいうにした上で、自己に適したスタートの仕方を考えたり、なぜ選んだか説明したりすることを通して、自分なりの運動感覚を言語化していく。1

2 「6秒間折り返し走」の活動を通して、自己に適した「ターンの仕方」を選ぶ。**思ア・イ・技ア**

【個の確立】 何度も「走ること」に関わることでできる学習過程を工夫し、走り方について選択できるような場を設定することで自ら試してみたいという思いをもって活動する姿を引き出す。



【見方・考え方を働かせる】
 ・タイム内にゴールできるよう「スタートの仕方」に着目して考える姿を引き出す。
 【見方・考え方を高める】
 ・「スタートの仕方」以外に工夫できる点として「ターンの仕方」に着目し、子供の思考を整理し、切り返しを共有する視点として押さえ、様々なターンの仕方があることを知り、自己に適したものは何か思考し、試行する姿を引き出す。

【個の内面化】
 ・様々なターンの仕方に名前を付け選択しやすいうにした上で、自己に適したターンの仕方を考えたり、なぜ選んだか説明したりすることを通して、自分なりの運動感覚を言語化していく。1

3・4 「折り返しリレー (2人組)」の活動を通して、チームに適した「協力の仕方」を選ぶ。**思ア・イ**

関イ・技ア **※本時4時間目**

【個の確立】 何度も「走ること」に関わることでできる学習過程を工夫し、協力の仕方について選択できるような場を設定すること、チームの走力を調整することで自ら試してみたいという思いをもって活動する姿を引き出す。



【見方・考え方を働かせる】
 ・1位を目指して「協力する場面」に着目して考える姿を引き出す。
 【見方・考え方を高める】
 ・「協力する場面」の「ゴールの仕方」「応援の仕方」「バトンの受け渡し方」について子供の思考を整理し、それら3点を共有する視点として押さえ、自己のチームで気を付けることは何か思考し、試行する姿を引き出す。

【個の内面化】
 ・「ゴールの仕方」「応援の仕方」「バトンの受け渡し方」について教師が積極的・即時的にフィードバック (言語化) を行い、協力できたことに対する自覚化を促す。1

5・6 「折り返しリレー (2人組) + 障害物付き」の活動を通して、「遊び方」を工夫する。**思イ・関**

ウ・技イ



【見方・考え方を高める】
 ・跳び越しやすさに着目し、各チームで設定したコースにチャレンジしながら、「どういう配置だと楽しく走りやすくなるか」を共有し、自分たちでコースを考えていく姿を引き出す。

【個の内面化】
 ・遊び方の工夫について言語化し、動きやすさや動きにくさについて思考を整理する。1

7 本時について（4 / 6 時間目）

(1) 本時の目標

折り返しリレーの活動で、他チームに負けないようにするために、バトンの受け渡し方等、様々な協力の仕方を考え、自分のチームに必要な協力の仕方を選ぶことができる。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために（個の内面化）

- ・前時までの学びを見えるようにするため、写真・図・言語を関連させ、掲示する。
- ・協力の場面について「ゴールの仕方」「応援の仕方」「バトンの受け渡し方」の3点に整理し、本時においては特に「バトンの受け渡し方」について言語化し、それらを試行してみた後、もう一度選択する機会を設ける。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導（▲）
<p>1 様々な走り方を通して、身体をほぐす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忍者走りは、静かにつま先で走る。 ・飛行機走りは、周りの人とぶつからないように走る。 ・ジグザグ走りはコーンの近くを素早く走る。 <p>2 前時に行った「折り返しリレー」にチャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間もやったね。 ・今度こそ負けないぞ。 ・しっかり応援しよう。 ・間違わないように声をかけてあげようね。 ・ゴールをしたら、素早く座ろう。 <p>3 「折り返しリレー」で順位を上げる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援はばっちりできたよ。 ・ゴールもコーンの周り方もがんばった。 ・バトンを待つ人は、しっかり立って待ってよう。 ・渡す人も声をかけよう。 ・片手でバトンをもってみようかな。 <p>4 考えたことを実際に試してみても、その後全体で考えたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援は、バトンの人に教えてあげるようにする。 ・始まる前、みんなで円陣を組む。 ・体を半分前に向ける作戦。 ・両手で確実にもらう作戦。 ・声を掛け合い素早く動く作戦。 <p>5 共有した視点を基に、自分のチームで気をつけることを選択し、もう一度チャレンジする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を掛け合う作戦でいこう。 ・体を前に向けて片手でもらう作戦でいこう。 ・バトンを受け渡す時も低い姿勢にしよう。 ・素早く渡せたよ。 ・今の速かったね。 ・順位が上がったよ。 ・先生に褒められたよ。 <p>6 今日考えたこと、頑張ったことを交流し、チーム毎に片付けを行う。</p>	<p>【個の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 何度も「走ることに」関わることができ学習過程を工夫し、協力の仕方について選択できるような場を設定すること、チームの走力を調整することで自ら試してみたいという思いをもって活動する姿を引き出す。 <p>【見方・考え方を働かせる】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「ゴールの仕方」や「応援の仕方」について価値付けし、チームが勝つためにできることは何か考えながら「折り返しリレー」に取り組めるようにする。 □ 各チームが協力している場面について価値付けを行い、特に「バトンの受け渡し方」について試行しているチームを教師が見取る。 □ 状況に応じ、何度かチャレンジする場を設け、「どうしても勝てない」「もう少しなのに」「どうすればいいか話し合いたい」等の思いを引き出し、ペアで交流したり、全体で交流したりする。 <p>【見方・考え方を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 様々な工夫する視点を認めつつ、「バトンの受け渡し」に着目できるように子供の言葉を繋ぎ、共有する。 □ 子供の思考が、他の視点に向いている場合、リレーの特徴である「協力する場面」として受け渡しゾーンで協力しているチームを取り出し、見本として示したり、教師が紹介したりする。 □ 今順位が上がらなくても、もう一度チャレンジすることで変化が生まれるということを伝え、意欲を高める。 <p>【個の内面化】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 即時的にフィードバックし、自分の動きが共有した視点とリンクしていることを自覚させる。 □ 順位が上がらないチームには、順位が上がらなくても、動きの変化が表れたことを言葉として伝える。 □ なぜ良くなったのか、どんなことを考えて、チャレンジしたのか運動感覚を表現する機会を設ける。 <p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 状況に応じて、最後に一度チャレンジする機会を設ける。 	<p>【運動観察（技ア）】</p> <p>▲ 言葉だけでは表現できない場合、図を使って、どこに気を付けるか問う。</p> <p>▲ バトンの受け渡し方について、共有した視点を基に矯正的に直接声を掛ける。</p> <p>【発言・運動観察（思イ）】</p>

